

HP 碎砂づくりを定着

宇部興産機械

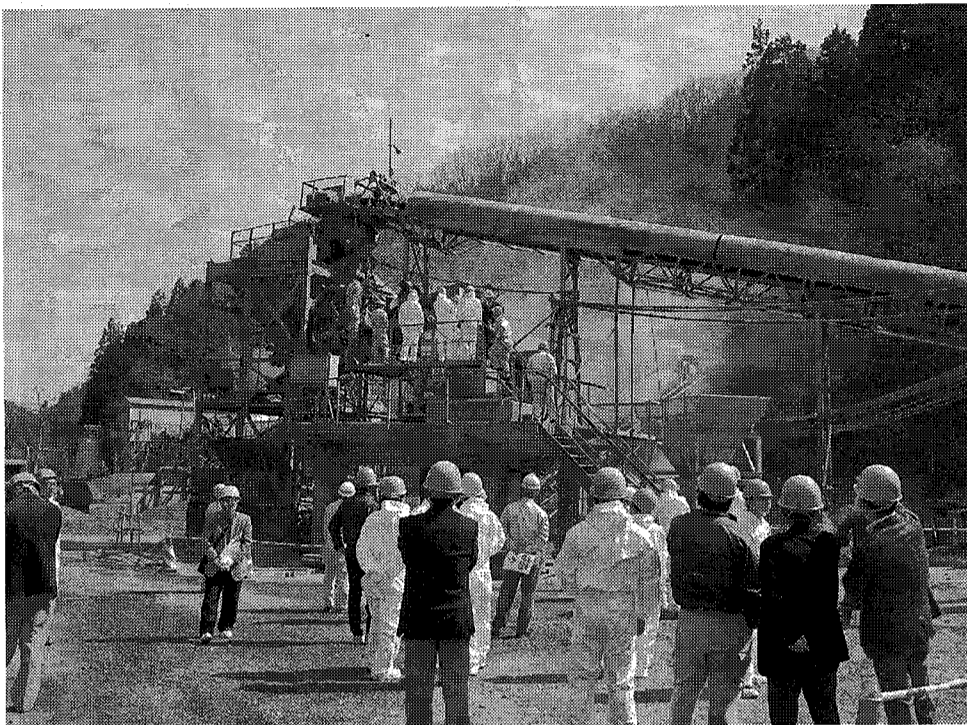
新型コーンデモ見学会

宇部興産機械(本社・山口県宇部市、久次幸夫社長)は4月17日、岩手県盛岡市内のホテルで新型コーンクラッシャー「HP3コーンクラッシャー」の製品説明会を、釜石市の釜石利建設・大曾根工場で実演会を行った。全国から砕石、石灰石骨材生産業者や宇部興産機械の販売代理店など約60人が参加した。

商品説明会の冒頭あいさつで高木万寿夫産機サード・ブレイクグループリーターは「被災地の復興や東京五輪開催に向けたインフラ整備で砕砂需要は増加傾向にある。実演会で一次破砕機とHP3だけで粒形の優れた生コン用粗骨材(200



5)と砕砂が生産できることを確認していただきたい」と話した。実演会では、C1000ジョークラッシャー(二次破砕機)とHP3で原石(輝緑岩と硬質砂岩)から2005と砕砂を製造した。参加した販売代理店は「取引先数社のシャ



実演会には砕石業者ら約60人が参加した

イラディスククラッシャーが老朽化し、後継機を探していた。HP3を後継機として購入していたた

くため、各骨材生産現場にあった使用方法を考えてきた」と話した。また、「2005と砕砂の品質は予想以上」(販売代理店)とする声もあ

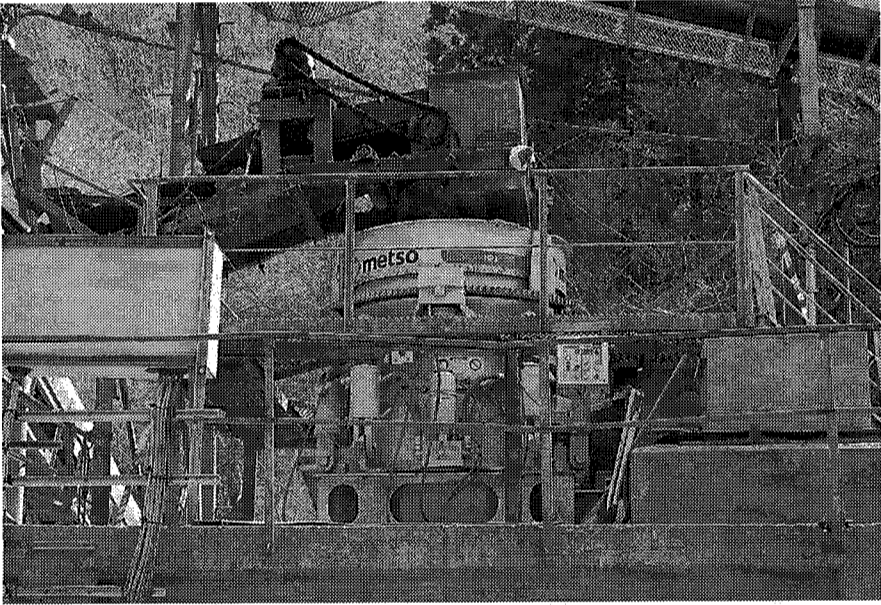
バーマックと同等の粒形

浜新正博機器販売推進チームリーターは「HP3は堅型ローラミルや骨材整粒機「バーマック」と同等の粒形判定実積率の砕砂を生産を実現している。7号砕石をHP300が400時間、HP100が1200時間経過後、ランニングコストを大幅に低減している。さらに納入実績を増やす。砕石粉や良質な砕砂を生産できることを周知していく



生産された砕砂

わせて、主に載した移動式を納入。水アスファルト洗した原料(5ミリアンダ合材用砕石)から砕砂(3ミリアンダ)を生産している。福島の銅精錬所には昨年11月にHP100を納入、3月から本格的に稼働した。鋼スラック(5ミリアンダ)からコンクリート用砕砂(3ミリアンダ)を生産している。宮城県の砕石場では、HP200を稼働した。茨城県の砕石場では、HP100とHP300を組み合わせたスクリーン1台を組み合わせたスクリーンシステムが稼働中。現在、固定式と組み合わせで稼働している。将来、移動式のみを生産に切り替える計画。HP200は二次の自走式LT200HPS(スクリーン付き)に搭載。自走式整粒機にはバーマックB7150を搭載。高品質の骨材が生産されている。



HP3コーンクラッシャー

HP3の主な特徴は▽閉回路運転とチョーク運動で粒形の優れた骨材(粗骨材と細骨材)を他機種より多く生産できる▽二次破砕機として適用できるアンチスピンの採用でライナーの摩耗とヘッドブッシュの軽減▽カウンターウェイトを付けることで消費電力を削減▽低圧運転が可能▽ボールライナーの取り付け方法を改善し、メンテナンス性と保守性を向上▽クランプ方式の採用でライナー交換時間を短縮。ライナー交換後直に生産可能▽厚肉ライナーの採用でライナーの寿命を延長▽メタルタッチングが不要で作業員を保護(オプション)など。

HP3導入で砕砂生産量2倍に

釜石利建設・大曾根工場では、硬質砂岩を原料とし、C1000ジョークラッシャー(一次破砕機)と48シャイラディスク(二次破砕機)で、砕石製品(120ト/時)を生産していたが、2005と砕砂の需要が大幅に増加、また48シャイラ

HP3の販売台数61台に

メツオ社(フランス)のカルロス・パドンのHPコーンクラッシャーを12年1月の販売開始以降、「HP3の生産性の劇進」と題して講演。実績は61台(14年1月現在)となり、今年中に新機種HP5を発売することを



生産された2005

転および引き渡しを終え、既存の固定式設備からの切り替えを行う。8月から本格稼働する計画。長野県の砕石場では、HP100が昨年10月から稼働。水洗した石灰石(20ミリアンダ)から砕砂を生産している。

グコストは、動力原単位が25%低減、消耗品コストが10%減少している。明らかにした。

メツオ社は毎年、新機を開発し発売している。14年も移動式破砕機を3機種、固定式破砕機を3機種、新型バーマックのローラを発売した。

宇部興産機械の13年度国内破砕機納入実績は40台(HP10台)。昨年10月、HP3の1号機を釜石利建設に納品した。